令和７年度　第１回　府市トップミーティング

日時：令和７年５月１３日（火）9:15～10:00
場所：京都市役所　正庁の間

〇松井市長

おはようございます。西脇知事、そして府庁の幹部の皆さん、今日は京都市役所までお運びをいただきましてありがとうございます。メディアの皆さんも朝一番から会談ということになりまして、朝早くから御足労いただきましてありがとうございます。

それでは、本年度第１回目の府市トップミーティングを開催させていただきます。昨年は４月１１日でした。初めて西脇知事とのトップ会談を持たせていただいてから、早くも１年余りが経ちました。これまでから府市協調は門川市長時代から、縷々御尽力をしていただいておりましたが、西脇知事と私というコンビになりましてから、できるだけ機動的に、年１回、長年の懸案を協議するということだけではなくて、色んな具体的な政策のアイデアをフリートーキングし、もちろんここで初めてということではなくてですね。西脇知事から、トップ会談は大事だけれど、府市のそれぞれの事務方が、きちっと協議をできる体制をつくることが必要だという御指示も受けまして、事前にある程度準備をさせていただきながら、府市のトップでどんな話を話題にしようかということを話をさせていただくというサイクルがワンサイクル回りまして、２年目のサイクルに入りました。この１年だけでも府立・市立高校の連携とか、府域・市域を巡る周遊観光の促進、あるいは産業振興について知事と御相談をさせていただいて、早速成果が表れています。

記者の皆様には、今日、参考資料１枚、紙を配布させていただいておりますけれど、府立高校と市立高校の連携事業「京の高校生探究パートナーシップ事業」について申し上げれば、昨年のトップミーティングでの合意で、１２月２１日に国立京都国際会館で「京都探究エキスポ」というものを開催させていただきました。取材いただいた方も多いと思いますが、府立・市立の５１校が参加をしまして、４６６名の高校生が一堂に会して、１１６本に及ぶポスター展示・発表をして、そして同時にですね、高校生だけじゃなくて、中学生も見学に来る。あるいは大学生、大学院生、大学の教員の方々が、当然のことながら、高校生もそうですし、高校の教職員の方々、あるいは経済界の方々もそこに見学に来ていただいて、非常に活発な交流が行われました。ＡＩの我が国の第一人者である松尾豊教授、そして京都におけるＡＩの第一人者である谷口忠大教授、そして京都市の特別顧問も務めていただいている、私のかねてからの盟友でもある鈴木寛東京大学大学院教授。そういったトップレベルの研究者と高校生がですね、議論をし、そして、私が感銘を受けたのは本当に府立・市立の高校生がパネルディスカッションで、そういった方々に一歩も引けを取らないで、しっかりと堂々と発言をされていたというのは、私も正直舌を巻きました。そういう意味で非常に多くの刺激がありまして、今年度は、生徒さんが実行委員会をつくろうということで、今、生徒さん自身が企画を進め、どんな人を１２月にゲストに呼ぶのかというようなことも議論をしていただいています。そこで、昨年のトップミーティングの結果でもあるんですが、これをさらに発展させようということで、今年の場合は夏にですね。

これは「探究クエスト」という命名になったそうで、これは我々が命名したのではなくて、学校関係者が命名してくださったわけですが、夏の時期に３つの会場を使って４０人程度の少人数で、本当は合宿をやりたいなという声もあったらしいのですが、府域全域から生徒さんが来るので、宿泊とか移動ということがあるので、１日ではありますが、西芳寺苔寺さん、そして清水寺さん、そして天橋立に隣接する智恩寺さんの３つに御協力をいただいて、そこで歴史的な文化財を場にして、１日高校生がディスカッション、有識者を呼んで、色んなディスカッションをやろうというようなことを、事前にやっていこうというようなことも含めて、今回の探究エキスポ、あるいは、その事前の探究クエストも含めて、生徒の実行委員会の皆さんが、鋭意企画を練っていかれるということで、年間通してこの探究学習の１つのシンボルとなるようなイベントが多々。当然のことながら、各校が最終的に１２月２０日を目指して探究型学習を進めていくというようなことが、今、粗々合意され、今年の夏あるいは冬に向けて、生徒さんたちが、その企画を練っていただいて、それに応じて、知事や私も御相談を受けながら、色々な人選面とか含めて我々がサポートできることはサポートしていこうという、１つの大きな成果が出ているということを冒頭に御紹介をさせていただきます。

今年度もですね、西脇知事と私が色んなところで、例えば２人でサシでお話しするような場もこれまでも持ってきましたが、大事なことはそれだけではなくて、しっかりと府市双方が、事務方も含めてできるだけ垣根を低くして、そして胸襟を開いて、府市で何を一緒に合意をしながら、連携しながら、色んな政策事業を進めていけるかということについて、サイクルをしっかりとつくり上げていきたいと思います。

それでは、開会に当たって、知事から今の件も含めて何か御発言があれば、お願いしたいと思います。

〇西脇知事

おはようございます。まずは、今回のこうした素晴らしい会場、また、設えの設定、準備いただきました松井市長はじめ京都市役所の皆様にも心から感謝を申し上げますし、記者の皆さんにも朝から御臨席を賜りまして、誠にありがとうございます。今、市長から府立高校と市立高校の探究学習のことについて、今年度の動きも御説明ありました。実は、我々がトップミーティングで合意したことも、それは、かなりの多くの方の関わりの中で具体化していっていると、それは、さらに今年度進化していくということなので、こういうのを全部触れていると時間に限りがあるのでできないのですが、そういう成果が出ているのと、お配りした資料の中にも、教育関係で言えば様々進展がありまして、留学生向けのビジネス日本語講座とか、就職に向けた支援なんかも一体的に行おうということで、これも府市連携で、４月から開始しておりますし、７年度当初で言えば「京都未来人材育成プロジェクト」という名称で、これは府はどちらかというと大学と地域の連携に強みがあって、市の方は大学と企業の連携に強みがある、それぞれの特色を伸ばすとともに、大学と地域と企業とが一緒になるような、そうした連携も模索していこうということで、どんどん進んでおりますが、今日私から１点だけ。

実はその令和７年度当初で言えば、府市トップミーティングで合意した以外にも府市連携

の動きが出ているということについて、まさに事務レベルでも府市連携の機運が醸成されて、新たな施策が生まれているということについて御紹介申し上げますと、これまで京都府・京都市で４つに分かれていた妊娠と出産と子育てに関する相談窓口を統合して、若年層にも相談しやすいとか、幅広い悩みに対応できる、また、適切な支援につなげるという総合相談窓口を７月に開設いたします。具体的には、開設の時に改めて皆さんに詳しくお伝えしますけれども、例えば、２４時間３６５日対応できて、ＳＮＳも活用できるとか、医療職とか福祉職、心理職などの他職種の人が対応するとか、市町村とか関係機関との連携を構築するとか、あと、予期せぬ妊娠に関する相談、いわゆる妊娠ＳＯＳにも対応するというような内容の相談窓口の一本化の開設を予定しておりますので、こうしたことも、トップミーティング以外の場所でも、我々がこうして連携するという姿勢を示す中で連携が進んでいるということも御紹介したいと思います。

本日も、具体的な施策につながる、成果につながる議論を期待しておりますので、どうか市長よろしくお願いしたいと思います。私からは以上でございます。

〇松井市長

ありがとうございます。それでは、ここからはフリートークということで意見交換をさせていただきたいと思います。本年度最初のトップミーティングですので、これまでの合意事項や令和７年度当初予算に計上した取組を踏まえて、より前向きな発展を目指して意見交換をし、そして合意できることは合意していきたいと思っております。

まず冒頭に、昨今話題の米国トランプ政権の関税施策ですね、これについての府内経済の影響について議論させていただきたいと思うのですが、まず西脇知事の方から府内経済の現在の影響などについて、御説明いただけますでしょうか。

〇西脇知事

承知いたしました。まず、京都産業２１が行いました、令和６年度の第４四半期の京都ものづくり中小企業の景況調査によりますと、やっぱり受注量の業況判断ＤＩが前期から２０．５ポイント減ということで景況感が悪化しているという認識と、あと京都商工会議所が行われました、米国関税措置等によります京都企業への緊急影響調査でも、マイナスの影響を受けるのではないかと回答した企業が約６割ということで、やっぱり府内経済の影響は予断を許さないというのが認識でございまして、京都府でも４月３日に特別相談窓口を設置しておりますけれども、ここで中小企業の皆さんの懸念にはきめ細かく対応しますし、特に、今すぐに利用できるような支援制度に関する情報もホームページに上げております。

ただ、米国の関税措置ですね。最初、相互関税上乗せ分、中国を除いて９０日停止していましたけど、昨日、米中関税も１１５％引き下げるというようなこともありましたし、自動車部品への関税は緩和措置が発表されていることで、非常に内容も流動的だということもありますので、ここはそれぞれの諸外国の対応も含めてなんですけれども、国際情勢はきちっと注視をしながら、国も緊急対応パッケージは４月２５日に発表されておりますので、国の施策も見ながら、絶えず府内企業の情報を得て、それを府市で共有して何か必要が生じれば、時期を逸することなく対応していくということが重要じゃないかと考えています。

○松井市長

ありがとうございます。認識は、これは府市間でも事務的にも毎日連絡をさせていただいて、商工会議所をはじめとした経済団体とも日々連絡を緊密にして、なんせ毎日情勢が、新しいニュースが出てくるものですから、非常に警戒感が強まったり、ちょっと安堵したり、また油断できないという状況があったり、違う産業セクターに広がりがあるといったこともありますので、とにかく事態を注視して、我々としても、やはりこれは油断できない。そして実際色んなところで大きな投資について見合わせ案件が出ているとか、あるいは、この関税上乗せ分についてコストカットで対応しなければいけないという、そういう企業も出ています。そうすると、我々京都も部品産業が多いものですから、価格転嫁をしっかり進めなければいけないとずっと言っていたことが、そのコストカットをもう一回ギリギリやられてしまうと、本来、必要な価格転嫁も進められない。色んな意味で、事業について短期・中長期を含めて影響が出てきていますので、しっかり経済界も含めてですね、当然のことながら、商工会議所をはじめとして、中小企業団体中央会、信用保証協会などとしっかり連携して相談窓口の対応をしっかりする。そして、従来からやってきた色んな経営相談体制を再確認するとともに、資金繰り支援とか、あるいはデジタル化、担い手確保などの地道な地域企業に対する支援というものを、もう１回強化していかなければいけないと思っておりまして、ぜひ京都府さんと連携して、経済界とオール京都で、しっかりサポートしていかなければいけないと考えております。

広い意味では今の話は産業振興をこれからどうするかということだと思うのですが、この間トップミーティングでは、伝統産業あるいは半導体を含めた先端産業まで含めて産業振興について意見交換をしてまいりましたが、この産業政策について、西脇知事の方から、お考えをまず伺えませんでしょうか。

○西脇知事

京都産業の強みは多様性だというのは、京都府総合計画の中でも謳っておりまして、この間の昨年度のトップミーティングでもハイテク産業であります半導体産業から伝統産業まで、幅広く議論を積み重ねてきたのです。特に昨年度のトップミーティングでは、やっぱり世界でも屈指のシェアを誇っております半導体製造装置などの企業とか、あと、素材の研究開発でトップクラスである大学とか、京都には半導体産業のベースがありますので、ここに関連の産業の集積を図ることによって、若者の京都定着も課題になっておりますので、若者にとって魅力的な産業を創造していくことが必要だという話をさせていただきました。ということで、本年度は、配布資料の中にも少し紹介してますけれども、京都府・京都市で協調して予算を計上して、半導体関連の国際学会「ＶＬＳＩシンポジウム２０２５」とかですね、あと国際展示会。「ＳＥＭＩＣＯＮ Ｔａｉｗａｎ」と言ってますけれども、そうした学会とか、展示会において、ビジネスマッチングの機会の創出を図るというようなこととか。あと、京都の半導体関連企業の強みを国内外に発信するということを予算化して具体的に予定しておりますので、これはもう事務方が本当にそれを、相手もあることですから、きちっと進めていくということが重要かと思っております。また、今後の半導体を含む京都のものづくり産業の振興について考えるうえではですね。やっぱり、ここのところ一連のハイテク産業なり、

世界の経済の動きを見ても、ＡＩの存在というより、ＡＩの進歩というのが、かなり大きな影響を与えているのじゃないかなということもありますので、ＡＩの社会実装をはじめとする、そういう社会とか産業経済の発展に変化を踏まえて対応する必要があるということなので、これについては、さらに研究、検討を深めていく必要があるのじゃないかなと思っております。以上です。

〇松井市長

ありがとうございます。仰るとおりで、ＡＩの進化というのは目覚ましいものがあって、その進化のスピードが、つい１・２年前に比べても上がっているのではないかということの中で、これはもう産業経済の現場のみならず、経済社会全体の新しいモード変化というのが起こってくるという状況の中で、今、お話があったような、半導体を含む京都のものづくり産業がどうあるべきかということについては、しっかりと府市だけではなく、産業界、場合によっては大学の関係者なんかも含めて、具体的な意思疎通を図りながらしっかりと取組を進める必要があると私どもも考えておりまして、重要であるがゆえに、しっかり経済界とまず調整をして進めたいというのが、これは知事の御意向でもあるというふうに考えております。加えて、スタートアップについても一言申し上げたいんですが、これは大学のまち、あとで大学政策についても議論になろうと思いますが、やはり大学のまち京都の特性を生かしたスタートアップ創出の取組も大事で、京阪神で連携して取り組んできたスタートアップエコシステムについて、現在第２期計画を国に、内閣府に申請中であります。こういったものをしっかり積極的にお互いに取り組みながら、世界にインパクトを与えるグローバル企業をやっぱり京都から創出していきたいというような目標を持ってですね、ＩＶＳは、昨年、私も知事と一緒にまた来年もということで働きかけを行ってきましたが、この７月に、３年連続で京都で開催ということになりましたし、また、それ以外にも、５月２０日には「ＧＳＧ Ｉｍｐａｃｔ Ｃｏｎｆｅｒｅｎｃｅ」、１０月には、ソーシャルカンファレンスの「ＢＥＹＯＮＤ」というのも京都で開催されるわけで、さらに加えて言うと、ヘルスケア領域では「ＨＶＣ ＫＹＯＴＯ」などの開催が控えております。我々としては、府市が協調して国内外のスタートアップ、あるいはその支援機関が一堂に集まるような機会を捉えて、色んな京都の地域の企業の方々や学生、様々な人材とつながってもらえるような機会をつくり出していって、魅力的なスタートアップが京都から続々と生まれ、循環していくエコシステムをつくっていきたいと思いますし、そのことがまちの活力につながると思いますので、引き続き京都府・京都市あるいは京阪神、広域で連携して取組を強化していきたいと思っております。

ここまで広く産業について意見交換をさせていただきましたが、これは産業でもあり文化でもある、前回のトップミーティングで議論をした映画文化・産業の振興について議論を展開していきたいと思います。

前回、映画振興について何ができるか、これは府市のみならず、映画業界も含めて一緒になって何か考えていくべきではないかということを議論させていただいたところでありますが、この間、知事ともプライベートも含めて盛り上がっているものとして、京都に縁のある映画が最近全国的な注目を集めています。もちろん昨年は「ＳＨＯＧＵＮ 将軍」がアメリカのエミー賞１８冠、あるいはゴールデン・グローブ賞４冠ということで、素晴らしい成果を

上げたわけでありますが。もっと地域に根付いたもので言うと、安田淳一監督の「侍タイムスリッパー」。これは色んな賞をたくさん受賞されていちいち言えないのですが、まさか日本アカデミー賞の最優秀作品賞を取るという、ちょっと私もびっくりしたわけでありますが、それだけではなく７部門の受賞もありました。それから知事の地元が舞台の「事実無根」という映画が、これも全国的に注目を集めて、今、全国展開でちょうど先週末から東京で上映が開始されて、いきなり札止めというので、やっぱり東京のファンはすごいなと私は思ったのですが、それなんかも京都が舞台で、京都のストーリー。「侍タイムスリッパー」はまさに太秦が舞台、時代劇という素晴らしい作品でしたし、「事実無根」もこれからおそらく大注目を集めるのじゃないかと思いますが、私は絶好の、京都の映画をもう１回盛り上げていく機会なのではないかなというふうに思っておりまして、４月１５日には、府と市の職員が東映とか松竹といった映画関係事業者、あるいは京都国際学生映画祭の関係者を交えて意見交換を行っていて、引き続き京都の映画文化、映画産業の未来につながる対話を重ねてきておりまして、まずはですね、私は京都府がずっと実施されてきて非常にプロの評価が高いですね、友人の映画人なんか非常に高く評価されている「京都ヒストリカ国際映画祭」。それから京都市が実施してきた「京都映画賞」。これを今年度から同一の月に一体的に開催し、映画のまち京都を盛り上げていったらどうかなと考えますし、その開催に当たっては、「京都国際学生映画祭」など他の映画祭とのタイアップを強化して、例えば、１２月を京都の映画文化の理解促進と次世代への継承を図る月間として打ち出していきたいと考えておりまして、映画の振興は今すぐできることだけではなくて、今後、中長期で取り組まなければいけない課題等もあるわけでありますが、まずはそういったところから機運を醸成していきたいと考えるのですが、知事はいかがでしょうか。

〇西脇知事

ありがとうございます。松井市長の提案に全く同じ意見でございます。京都府も、太秦の映画産業を守って発展させたいという思いから、今まで時代劇を中心とした映画産業の振興に東映・松竹の他に、立命館大学なんかも連携して長年取り組んできまして、今、御紹介ありました「京都ヒストリカ国際映画祭」というのは、歴史とか時代劇をテーマとしている映画祭ですし、それから京都の映画文化の継承とか発展をこれまで図って来られた、この「京都映画賞」、これを一体的に開催するっていうのは、京都の映画産業の魅力の発信という意味においては非常に効果的なんじゃないかなというふうに思っております。市長から今紹介がありました「侍タイムスリッパー」は、この「京都ヒストリカ国際映画祭」でも上映されてますし、それから吉本興業を中心にして市も応援されてきました、今ちょっとなくなっているのですが、「京都国際映画祭」でも上映された作品ということで、そういうきっかけを与えていますし、特に「京都ヒストリカ国際映画祭」は、これまで１６回の歴史がありまして、加えて、この制作の本場で若手クリエイターを育成する「京都フィルムメーカーズラボ」、これも１７回目。それから若手の映画制作者などを対象とした企画コンテストであります「映画企画市」、これも１６回目ということでかなり回数を重ねてきまして、先ほど紹介ありました「侍タイムスリッパー」の安田監督からも「映画企画市がなければ、侍タイムスリッパーは存在しなかった」というような言葉もいただいております。また、冒頭に紹介ありました「ＳＨ

ＯＧＵＮ 将軍」の第８話のエマニュエル・オセイクフォー監督というのは、この「京都フィルムメーカーズラボ」の２００９年の卒業生というようなことで、徐々に、これまでの取組が実を結んできたなということがあります。それからもう１点は、実は京都府としては映画だけじゃなくて、太秦メディアパーク構想というのを策定していまして、ゲームとかアニメなどのクロスメディアで、映画も含めて映画村の再整備をはじめとする拠点の整備と、それからコンテンツ産業を土台としてＡＲとかＶＲとか様々な最新技術ができてきてますので、そのオープンイノベーションと人材育成もしたいという思いがありますので、まさにその出発点というかですね、きっかけとしては、「京都ヒストリカ国際映画祭」と「京都映画賞」の一体的開催。それにとどまらず、それをさらに発展していくことが重要だと考えております。よろしくお願いいたします。

〇松井市長

それでは、本年度の第１回の府市トップミーティングの合意事項として、映画文化・映画産業の振興ということで、京都府が実施される「京都ヒストリカ国際映画祭」と京都市が実施する「京都映画賞」を１２月に一体的に開催するとともに、継続的に京都映画の振興に関係者の皆様と府市が一体となって取り組んでいくということを映画に関する本日の合意事項としたいと思いますが、よろしいでしょうか。ありがとうございます。

では、産業から文化に進んで来ましたが、さらに文化でもう１つ。来年４００年の節目を迎える寛永行幸について、西脇知事から御発言お願いしたいと思います。

〇西脇知事

一部、報道等もされているので御承知かと思いますけれども、２０２６年には１６２６年に後水尾天皇が９，０００人規模の行列で二条城に赴いて、それを徳川将軍家が最上級のおもてなしで迎えた、いわゆる寛永行幸から４００年の節目を迎えるということで、寛永行幸は、朝廷と幕府の融和の象徴でもありますし、全国から大名が京都に集まりましたし、雅楽とか蹴鞠などで天皇をもてなすということで、江戸時代の最大級のイベントとも言われてますし、経済効果も多大だったというだけじゃなくて、現代の日本文化にも大きな影響を与えている寛永文化が、京都から花開いて全国に伝播していくきっかけとなったというふうにも言われています。来年度は、万博のネクストイヤーですから、この際に、寛永行幸とか寛永文化を振り返って、京都の観光・文化・産業のアップデートにつなげるような記念事業の「寛永行幸四百年祭」というのをオール京都の組織であります、文化庁連携プラットフォームのプロジェクトとして実施してはどうかということを考えております。よろしくお願いします。

〇松井市長

ありがとうございます。私もですね、実はゴールデンウィークに泉屋博古館のリニューアル展に伺いまして、館長に御案内していただいて、まさに、この二条城行幸図屏風というのを拝見して、この寛永年間にこんな素晴らしい行幸があったんだ、武家、公家、そして町の人々、町の模様というのが素晴らしい屏風で感銘を受けました。本当にタイムリーで、今、仰ったように、寛永っていうのは、まさに戦乱が終了した平和な時代背景の中で、公家、武

家だけではなくて、町衆が文化の担い手になって、ある意味では江戸の文化、もちろんさらに以前からの歴史があるものですが、茶の湯、生け花、書、陶芸、絵画、現代につながる多様な文化が京都で花開いた、非常にタッチポイントの多い寛永文化を今ここで取り上げる、万博の次の年に取り上げるというのは、私も日本文化の再認識、京都の文化のアップデートにつながるものだと思って、大変ありがたいことだと思いますし、ぜひ一緒にと思うのですが、知事いかがでしょう。

〇西脇知事

それともう１つは、寛永期は戦乱で荒廃していた清水寺とか東寺とか下鴨神社の、京都を代表するようなお寺さんや神社が続々と再建されて、現在の京都の景観につながるようなまち並みがつくられたのです。しかも本阿弥光悦とか俵屋宗達の琳派の方とか、新たな文化の潮流も生まれて、しかも、それが経済発展にもつながったという、まさに文化と経済の好循環が実現した時代でもありますので、それに注目することは非常に重要だと思っております。文化庁連携プラットフォームの構成団体も、様々な企画を検討しておりますし、それからもう１つは、これができれば、文化庁と連携して、全国各地でもひょっとすると寛永に関する様々な取組があるかもしれないので、例えば共通のロゴマークなんかを作って、全国的な広がりになるような取組まで発展させられればというふうに思っております。いずれにしても、文化と経済の好循環の代表例となるような取組を、今年度から準備を進めてまいりたいと思っております。よろしくお願いいたします。

〇松井市長

はい、私も全く賛同でございまして、引き続き、文化庁と連携しながら府市で共に準備を進めていきたいと思います。

〇西脇知事

令和８年度をターゲットイヤーということにして、京都府、京都市、経済界を中心とするオール京都体制での文化庁連携プラットフォームの取組として、例えば、行幸行列の再現とか、各種企画展示などの「寛永行幸四百年祭」を企画実施するということを、今回の文化に関する合意事項としたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

〇松井市長

ありがとうございます。それでは次の話題に移りたいと思うのですが、昨年度からトップミーティングの話題になっています大学政策について、産業界と連携した人材育成という観点から意見交換をさせていただきたいと思います。

大学のまち京都は改めて言うまでもないのですが、これは知事も私もずっと言っていることなのですが、京都の大学生は、京都市で言うと地域の人口の１割強に相当するのですが、卒業した後の府内企業への就職率は２年連続１７．８％と、この間の低迷状況を脱しておりません。私も大学の教員の経験も考えると、大学生が自宅と大学とバイト先の３点だけグルグル回っていて、本当の京都のポテンシャルという、あるいは京都の課題というものに必ず

しも向き合えていないのではないかという懸念を従来から持っておりまして、学生と社会をもっとつないでいかなければいけない。このことは、大学コンソーシアム京都の先生方とも議論をしておりまして、その連携が非常に大切だと思います。今年度は、府市連携の「京都未来人材育成プロジェクト」に加えて、大学コンソと連携して、新たに学生が地域に入る初めの一歩を後押しする取組である「学生と地域をつなぐ学まちコラボ事業」、あるいはインターンシップを通じた京都企業での就職体験に力を入れているところであります。大学コンソーシアム京都の小原理事長とも、先般ざっくばらんに意見交換をして、基本的な方向性は同じだと認識しております。私も大学の教員でしたが、大学には京都の産業とか企業を研究している先生もいらっしゃいまして、面白い授業は行われているのです。そうした先生方に積極的に関わってもらって、伝統産業や地域企業を研究する講座をつくる。そうすることによって、大学の授業の一環として、もっと地域の伝統企業などに、あるいは地域に関わってもらう、学生に関わってもらうという機会を増やして、伝統産業、地域企業研究講座、様々な地域の京都の魅力を学ぶような講座を、大学コンソを核として開講し、京都ならではのユニークな学びができるとする機運をもっと醸成していきたいと、私自分自身の経験からも思うのですが、このあたりは知事はどんなお考えでしょうか。

〇西脇知事

本当に同じ考えですね。特に、府内の大学生が卒業時に外に出ている、色んな要因はもちろんあるのですけれども、まず大学生が京都の地域のこととか企業をあまり知らないのじゃないかっていうのも課題ではないかと考えてまして、これまでも、地域連携を進めてきたのですけれども、京都はハイテク産業から伝統産業、観光産業とバラエティに富んでますし、文化的な背景とか、歴史的観光資源を反映している産業という強みがあるわけなので、もっと地域連携・企業連携を一体的に進める必要があるということですので、先ほど私からも発言しました、市長から紹介ありました「京都未来人材育成プロジェクト事業」。これは、本当に新しい新基軸でのプロジェクトなんで、まずはこれをきちっと進めることによってですね、学生さんが府内の地域企業と交流することによって理解を深め、そしてそれを府内定着につなげたいなというふうに思っております。

先ほどの府立高校・市立高校の探究学習があって、これは、いずれ高大連携とも言ってるのですが、その大学の先には、当然、企業があり、そして地域は非常に幅広く存在しているので、これを、今年度深掘りしていけるのではないかなと思っているので、例えば、「京都未来人材育成プロジェクト事業」はこれからなので優良事例が出てくれば、それを大学コンソーシアム京都とか産業界と交えまして、講座として先ほど紹介あったところで開講するというようなことがあればですね、学生・地域にとっても広がりができるんじゃないかなと思っておりますので、ぜひ府市連携でそういう講座についても検討していきたいなと思っています。

〇松井市長

ありがとうございます。ぜひそうしていきたいと思います。大学コンソともしっかりこれから話し合っていかなければいけないと思っております。

今の大学政策に関して言うと、留学生の問題があります。問題というか、留学生が、今、過去最大になっているのですね。私はずっと留学生に地域にもっと溶け込んでもらいたいと、留学生の国別に固まってしまうということはできるだけ避けたいと考えておりまして、その意味では留学生にもっと日本語教育の機会と同時に日本文化の学習機会を提供して、京都で学び、そして、その留学生も含めて働きやすい環境をつくっていかなければいけないと思っておりまして、実は日本語教師の数が足りなくて、今、各大学で取り合いのような状況になっているのですね。日本語とか日本文化の教育に関して言うと、大学の専門性に応じたものもありますけど、多くの場合は、実は共通のものでもありまして、それをもう少し日本語、日本文化教育に関してどんな取組ができるのか、府・市・大学コンソで話し合うということが非常に大事ではないかなと考えておりまして、また留学生のビジネス日本語実践プログラムでは、インターンシップ、企業との交流会に加えて、伝統産業の製造現場の見学プログラムを計画しておりまして、非常に期待しているのですね。伝統産業を未来に継承していくというのは、やはり伝統産業、素晴らしい技術・技能があるのがきちっと世界とかマーケットにつながっていないということについて、もっと若年期から、場合によっては、今、知事が仰ったように、「京都探究エキスポ」で、将来、伝統産業のワークショップみたいなものを企画してみてもいいんじゃないか。これは運営委員会の生徒たちにも相談しなければいけませんが、そんなこともありますし、留学生の話に戻れば、我が国が直面している人口減少の中で、国内外をはじめ多彩な人材を受け入れて、それを伝統産業の復活、世界につなげていくというようなことも含め、留学生も含めて活躍していただかなければいけないんじゃないかと思っておりまして、先般、知事と一緒に湊総長と、京大・京都府・京都市の三者で初めてクリエイティブ人材の受け入れとか産業振興に向けた連携協定を締結しましたが、こういうことも含めて京都のイノベーションを加速する重要な一歩としていかなければいけないと思っております。

これから人材の受け入れ、交わり、大学と産業界の連携について、引き続き府市トップミーティングで議論していきたいと思うのですが、いかがですか。よろしいですかね。

〇松井市長

これ具体的な各論の話なのですが、昨年８月１６日に知事と私はたまたま同じ集いに参加していて、そのとき２人で「これは気になるなぁ」と言っていた話が、地元紙の報道でもありましたが、五山送り日当日のヘリコプターの飛行、これが話題になりました。市民の間で随分話題になりましたこの件について取り上げたいと思います。

地元紙の報道もあって、様々な御意見が市民から我々にも寄せられました。これを受けて、改めて航空事業者の皆さんに、五山の送り火の性質、行事の意味合いということも踏まえて、静謐な環境の中で厳かに五山の送り火が執行できるよう、行事中の市内上空における遊覧目的の飛行自粛を府と市が歩調を合わせてお願いを既にしております。今後とも府市協調によって伝統文化・伝統行事の維持継承に取り組むとともに、伝統文化を大切にする機運の醸成に向けて呼びかける、そのことの重要性の一つの発露だと私は考えているのですが、知事の方から何かございませんでしょうか。

○西脇知事

京都というのは宗教都市であり、精神都市でもありまして、観光で京都を訪れる方々には、その文化とか伝統行事そのものはもちろんなのですけど、そうした文化に携わっている方とか行事に参加されている方の心情に対しましても、理解とか敬意を持っていただく必要があると思っていまして、時代と共に生活様式とか変化しますけれども、積み上げてきた過去の１０００年以上の歴史というのは不変であるので、これは送り火に限らないのですけど、歴史とか文化とか伝統行事といった京都に必要不可欠な要素への理解を求めることは大切だということで、今紹介ありましたように、五山の送り火というのは、祖霊信仰と仏教が結びついた民俗行事なのですね。

だから、地元の人々の信仰によって始められて、だからこそ現代まで受け継がれてきたということなので、そういう行事の趣旨をぜひ理解してほしいということで、航空運送事業者の皆様にも改めてお願いしたのですが、今回もまた改めてですね、行事の趣旨を十分理解していただきたいということはお願いしておきたいと思います。

○松井市長

そういうお願いを両者でさせていただいたということでございます。御報告でもございますが、趣旨は、今、知事が仰ったことと、私が申し上げたことでございます。それでは、最後に観光振興について議論させていただきたいと思いますが、これは知事から御発言お願いしたいと思います。

○西脇知事

昨年度のトップミーティングの成果の１つ「まるっと京都」ということで、周遊観光ツアーを造成するという場所の分散化に取り組んで、例えば、伏見の酒造りと伊根のぶりしゃぶを堪能するというような非常に広域的な周遊ツアーも実は実施されています。場所の分散化の次に、時間の分散化も重要であるということで議論しまして、令和７年度については、まず京都府・京都市の朝・夜観光コンテンツイベント情報の特設ウェブサイトでの集約とか、情報発信の強化にも取り組んでいきたいし、周遊については、府とか市域にとどまらずに、周辺の府県とも連携を図ることも重要なんじゃないかなと考えておりまして、実はこの土日とですね、淀川舟運フェスティバルをやりまして、大阪と枚方との、最終的には十三の船着場まで伏見から行かせていただいたのですが、こんなことも万博のレガシーとして、川をテーマとした観光誘客・交流の促進につなげたいと思っていますし、アクションプランの中の１つに、寝台特急を走る茶室に設えて京都駅から琵琶湖を一周するような経路で、１日限定の特別運行が６月７日に行われるということは、先日発表しておりますので、「まるっと京都」の取組をより発展させるというのがあります。それをより周辺府県、それから時間の分散化で、更に発展させていくことで、その他についての市長のお考えもお聞きしたいなと思います。

○松井市長

ありがとうございます。知事の今の御意見に全く賛同でございます。周遊観光をさらに推

し進めたいと思いますし、やっぱり本物の京都を幅広く味わっていただくために、周遊観光は非常に大事だと思います。実施内容としては４つあるんじゃないかと思います。

１つ目は、川の京都で、府市で役割分担して、市では、船や食文化等に関連したコンテンツ造成あるいは川にまつわるスポットやストーリーをつないでホームページに発信するなど、京都の川にまつわる歴史や文化を感じられるような取組にしていきたいなと思います。

２つ目は、朝・夜観光で、直近では桜の季節に運行していた岡崎さくら回廊十石舟で今年度から新たに朝８時台に通常便よりゆっくり運行する特別貸切プランを販売させていただきました。朝の静かな時間に、桜と琵琶湖疏水を楽しんでいただいて好評をいただいた。こういう取組をもっと具体的に増やしていきたいと思います。

３つ目は、トレイルとサイクルツーリズムで、山間部、京都は山に恵まれています。山間部エリアの森林資源を活用したトレイル、あるいはサイクルツーリズム。京都はサイクリングしやすいまちでもありますし、広域のサイクリングツーリズムというのも、他の自治体との連携も視野に入れて、京都の持つ豊かな自然のポテンシャルを最大限に引き出していきたいと思います。

４つ目は周遊観光ツアーで府市の周遊観光ツアー支援について、旅行事業者の主体的なツアーの企画実施をさらに定着させて、企画実施したツアーのＰＲ経費に対する支援を倍増していきたいと思いますし、周遊観光の範囲に新たに滋賀県などの他府県も対象に含めることを検討させていただいております。京都と滋賀県は、特にこの間、琵琶湖疏水を巡る感謝金の話も大きく取り上げていただきましたが、琵琶湖の恵みを享受し、よき隣人同士として互いに行き来しながら発展してきた歴史があります。私も先祖のお墓は滋賀県にありますし、今も本籍地は滋賀県大津市に置いております。そういう意味では、本当に周遊観光を他府県に広げて、近隣自治体とも連携していきたいと考えております。よろしければフリートークはこれぐらいにさせていただきたいと思います。

〇松井市長

最後に、今日は私どもの方が幹事なので、本日の合意事項を改めて確認させていただきたいと思います。

令和７年度の第１回府市トップミーティングの合意事項としては、映画文化・産業の振興として、京都府が実施する「京都ヒストリカ国際映画祭」と京都市が実施する「京都映画賞」を１２月に一体的に開催するとともに、継続的に京都映画の振興に関係者の皆様と府市が一体となって取り組んでいくこと。

そして、寛永行幸四百年祭に関しましては、令和８年度をターゲットイヤーにして、府・市・経済界を中心とするオール京都体制での文化庁連携プラットフォームの取組として、行幸行列の再現や、各種企画展示等の「寛永行幸四百年祭」を企画実施すること。

これを確認させていただきたいと思います。最後に西脇知事の方から何か御発言があればお願いいたします。

〇西脇知事

本年度の第１回ということで、昨年度の第１回は４月ですけれども、今日、話していて、

改めて、昨年度の１年間のトップミーティング及び事務方の成果によって、７年度当初予算化されているということは、具体化しているということなので、昨年度全く白紙でやったのに比べると進んできてるなというのは実感しております。ただ、課題はたくさんございますので、これからもさらにお互いに議論を深めるとともに、事務方におかれましても、ぜひとも今日の話も踏まえて、各分野の取組をより具体化、掘り下げていただければありがたいと思っています。改めまして、本日は様々な御準備を含めて、松井市長並びに京都市役所の皆様に感謝を申し上げたいと思います。どうもありがとうございました。

〇松井市長

こちらこそありがとうございました。今、知事が仰ったとおりで、私の方からも府市双方の事務方に、心から感謝を申し上げたいと思いますし、これをサイクルにして、ここでまず１回目をやって、昨年も途中の時期にやって、そして最終的に次の年度の予算編成につながるようなところで３回目をやらせていただきましたので、よいサイクルにして、しっかりとフリートーキングをしたものを刈り取っていくというような形で、これが定着できればありがたいと思います。本日は、西脇知事、そして京都府の皆様方、そして私どもの方も含めまして御準備をいただきました皆様に感謝を申し上げて、本日のトップミーティングは終了とさせていただきます。

そして、次回については、検討が進んだ段階で開催できればと思いますので、改めて事務的にも調整をしつつ、皆様にも御連絡をさせていただきたいと思います。本日はありがとうございました。